
無題詩 3 5

蟻塚つかっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無題詩35

【Nコード】

N8369U

【作者名】

蟻塚つかちゃん

【あらすじ】

アンタイトルポエムス35

『家畜人やプー』が手招いている。

ちくしょう、齒車が噛み合わねえ、と。

僕は物音のシンフォニーに聞き入っている。

そこでは、目の前でポーリンたちが、

朱や金で装飾された地獄の門を、

「はやく、はやく、閉めなくちゃ、閉めなくちゃ
と言っている。」

『不思議の国のアリス』が狂っている。

ちくしょう、誤植が増えてやがる、と。

僕は没我の境地の地面に唾を吐く。

そこでは、マッドハッターたちが、

七色に光るアリアドネの糸を、

「はやく、はやく、掴まなくちゃ、掴まなくちゃ
と言っている。」

『虚構船団』が刺すように絶叫している。

ちくしょう、舌がひりついてきやがる、と。

僕は残酷劇から一時的に退場する。

そこでは、コンパスたちが、

益と害の黒い冷たい影法師を、

「はやく、はやく、殺さなくちゃ、殺さなくちゃ
と言っている。」

この文字たちは文字から解放されない。

詩や小説の中で苦しみ続けるのだ。

名も持たずに消えていくのだ。
現実には逃げることはできない。
活字という檻の中で消耗していくのだ――
静かな湖にさざ波が広がっていくように、
僕はこう思う。

「かわいそうに」

でも、これは僕たちにも、そういえることを、
僕たちは知らないし、理解できない。

いいや、違う。

ごまかしているんだ――

僕たちは知らないふりをして、理解できないふりをしてる。
そうなのだ。

本当にかわいそうなのは、

「僕たちだ」

誰の目にも虚勢にしか見えない。

僕たちはフィクションの中を踊り続けている。
いかにも、楽しそうに、ね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8369u/>

無題詩 3 5

2011年10月9日02時50分発行